



つむぐ

浜松市教育研究会
 研修主任研究部
 研修だより No. 2
 令和6年 8月 27日

第2回研修主任研修会

8月5日(月)に本年度2回目の研修主任研修会が浜松市教育センターで行われました。

今回の研修会では、初めに、宮崎正教育長より講話をいただきました。その後、講話の内容を受けグループ協議を行いました。

宮崎教育長の講話では、浜松の教育で重点的に進めていること、研修主任に期待することやその役割について、貴重な講話をいただきました。

以下は講話の概要とグループ協議の主な内容です。



教育長講話 「研修推進リーダーへの期待」(概要)

【ICT 教育の推進について】

令和2年11月に発表された「はままつ人づくり未来プラン 教育の情報化編 ～ICT の力で子どもたちの将来を切り拓き未来への浜松へツナグ～」には、教育の情報化が一層進展するよう、学校・教育委員会の具体的な取組などが以下の視点で示されている。

＜教育の情報化 5つの方針＞

- ・情報活用能力の育成
- ・教科等の指導における ICT の活用
- ・教師に求められる ICT 活用指導力等の向上
- ・機器や教材等の教育環境の充実
- ・校務の情報化の推進



情報活用能力の育成について、令和6年度の推進目標として、自分の考えや思いをパソコンを使った資料や新聞にまとめ発表することができる子どもの割合を70%以上、教員に求められる ICT 活用指導力の向上について、教科指導において単元の中で計画的に ICT を活用している教員の割合を100%に到達することを目標として掲げている。

現状では、授業に ICT を活用することに対して肯定的な回答をした割合は80%に留まっており、自校の ICT 活用の推進状況を確認するとともに、十分でない場合は必要な対策を講じてほしい。そして、教育の変化に主体的に関わっていくこと、果敢に変化に向かっていく気持ちを持つことも大切である。

【国立教育政策研究所の報告書について】

令和6年3月に国立教育政策研究所から出された「社会情緒的(非認知)能力の発達と環境に関する研究：教育と学校改善への活用可能性の視点から」の報告書によると、心身の健康や社会への適応において社会情緒的能力が重要であると認識され始め、国際的に社会情緒的能力の教育への関心が高まっている。その中核となる「感情知性」「セルフコントロール」

「向社会的行動」に着目し、日本でも調査研究が実施され、その成果と課題が報告された。

この報告書を受け、教員が子どもたちに支援的に関わることや、学校安全を重視することは、子どもたちに社会情緒的能力を育むことに大きな力となっていること、子どもたちがモチベーションを保ちながら生活するには、「感謝」「思いやり」「誇り」を持たせることが大切であることが確認された。私たち教員は、単なる知識や表現力といった学力だけを育てているのではなく、「学び合い」、「分かち合い」、「競い合う」中で、困難なことにも粘り強く取り組もうとする気持ちや姿勢といった、社会情緒的能力も育てているのだという自覚を持ち、日々の活動に取り組んでほしい。

グループ協議

後半のグループ協議では、教育長の講話について個人で整理し、グループ内で意見交換をしました。その後、各校の夏季校内研修や指導案の書き方など、持ち寄った資料を共有しながら、情報交換を行いました。各グループでタブレットを活用し、協議内容はクラスルームのスライドに入力し、記録を行いました。協議について代表のグループに発表していただき、スライドの画面を提示しながら全体共有を行いました。その際、話題になったことをいくつか紹介します。

【教育長の講話を聞いて】

- ・心理的安全性の確保が社会情緒的能力の発達につながる。また、教員組織にも同様のことが言える。
- ・子どもも、教師も変化をするとき。ICT活用を推進すると共に、変化に向かっていきたい。



【各校の情報交換から】



- ・異年齢の教員集団で研修を行っている学校がある。学び合いの機会を作っている。
- ・各校の指導案を比較し、情報交換を行った。指導案に必要なこと、形式はどうあるべきかなどを考える良い機会となった。

最後にまとめとして、御手洗校長より講話をいただきました。

「わかる」「できる」「真にわかる」とはどういう状態か、そのことから今一度「問い直して」みてはどうか。教科によって「わかった」と「できた」の表れや状態は違う。子供に「真に力をつける」とき、それは「できた」となっている状態なのか、「わかった」となっている状態なのか、そこを問い直すことで、自然と授業も変わるのではないかと。研修主任には、このことを職員に問いかけ、気づきを与えることが役割として求められる。



2学期からの実践に向け、本研修が多くの気づきや学びのある貴重な機会となりました。今後も有意義な研修となるよう尽力していきますので、引き続き御協力をお願い致します。

(文責 北浜東小 野末侑理)